

令和6年度 第1回伊予市ブランド認定審査会 議事録

日 時	令和6年5月21日(火)午前10時00分～午前10時45分
場 所	伊予市市役所 3階 庁議室
出席者	会長・松本直樹、副会長・武内英治 委員・弘田智美、中村憲二、北岡正壽、友澤千代
欠席者	
事務局	【企画振興部/地域創生課】 企画振興部 部長 向井 功征 課長・松本 宏、課長補佐・関木浩司、係長・宮田勝秀 主査・福本辰巳、主任・三谷 真鈴
内 容	<次第> 開会 1 会長あいさつ 2 委員自己紹介 3 令和5年度「ますます、いよし。ブランド」認定事業の実績報告について 4 令和6年度「ますます、いよし。ブランド」認定事業(案)について (1)令和6年度ブランド認定品募集について (2)審査基準について (3)認定までのスケジュールについて 5 その他 (1)商工観光課・観光協会・観光物産協会(ソレイヨ)との連携について (2)第2回伊予市ブランド認定審査会の日程について 閉会
～開会・会長あいさつ～	
<p>【事務局(課長)】 ただ今より「令和6年度 第1回 伊予市ブランド認定審査会」を開催致します。本日はお忙しい中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。 それでは、会に先立ちまして、企画振興部 部長 向井よりごあいさつ申し上げます。</p> <p>【企画振興部長】 企画振興部長 向井でございます。また1年間、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、一言ごあいさつを申し上げます。 本日は御多用の中、令和6年度の第1回目となります伊予市ブランド認定審査会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。 この伊予市ブランド認定事業も、今年で9年目を迎えることとなりました。長らく御協力を賜りました委員の皆様、そして事業者の皆様に、心から感謝とお礼を申し上げたいと存じます。皆様の温かい御支援があってこそ、この取り組みは実を結ぶことができた実感しております。 さて、この間、本市では DCM 株式会社様のお力添えを得て、特産品フェアを開催するなど、伊予市の魅力あるブランド製品の PR に努めてまいりました。また、一昨年度からは首都圏におけるシティプロモーション活動の一環として、関東ふるさと伊予市(伊予市人会)を立ち上げ、ブランド認定品を使った料理の提供や試食品の配付を行ってきたところです。参加者の皆様からは高い評価をいただき、改めて本市の食材や商品の高い価値を実感することができま</p>	

した。

こうした活動の積み重ねを踏まえ、今後はさらなる飛躍を目指して参りたいと存じます。東京都港区との連携事業の一つである札の辻スクエアでのフェアに加え、今年度からは首都圏でのファンクラブミーティングの開催も予定しております。様々な機会を捉え、伊予市の魅力を内外に広くPRし続けることで、地域ブランドの確立と地域活性化を実現できるものと確信しております。

委員の皆様におかれましては、これまで同様に御支援、御協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

最後に、本日の審査会では活発な意見交換が行われ、より良い伊予市ブランドの認定に御尽力いただきますようお願い申し上げます、簡単ではございますが、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。

【事務局(課長)】

続きまして、松本会長からご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

皆さん、ご参集ありがとうございます。皆さんとお会いするのは昨年夏以来ですが、私自身、この4月より所属が変わりまして、そういう意味でも少しバタバタしております。以前、この話をさせていただいたことはあるかと思いますが、大学というのは7年に1回、適格に運営できているかどうかということで、外部から認証評価を受ける必要があります。認証評価を受けると、ウェブサイトの下の方に適格な認定ですよ、ちゃんとしてますよってという評価を受けるんですが、その移った職場でその作業をやらなきゃいけない。何もわからないまま、この4月からその報告書の作成に追われている状況です。そういう審査を受けるという事はなかなか気が重いものです。ですからこのブランド認定ですけれども、審査をする立場ということになりますので、気が軽いかということではなくて、申請をする方々の思いを受けて、責任がございまして、やはり気を引き締めていかなければならないと思っております。今年もまた皆さんの力添えを得て何とか乗り切って参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局(課長)】

松本会長ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、今後申請のあった商品が伊予市ブランドとしてふさわしい商品かどうか審査していただくことになっております。皆さんの任期は今年度いっぱい、あと10か月あまりでございますが、引き続き伊予市ブランドの更なる発展のためお力添えをいただきたいと思っております。

さて、本日は今年度、最初の審査会でございます。担当も変わっておりますので、委員の皆様、我々事務局側も自己紹介させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、改めまして松本委員よりお願いいたします。

～委員・事務局紹介～

【委員】

改めまして。先ほどちょっと申し上げた通り、私、短期大学の学長となりましてガラッとかわりました。この会は先ほど責任があるとは言いましたが、9年目なのでその辺は皆さんの協力さえいただければ乗り切って参れると思っておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

【委員】

山陽ホールディングスグループで代表をしております武内と言います。ここに書かれているとおり商工会議所の副会頭と観光協会の会長という形で、参加させていただいています。よろしくお願ひ致します。

【委員】

伊予市食生活改善推進協議会の会長をしております友澤です。よろしくお願ひいたします。

【委員】

北岡と申します。伊予料飲組合の委員長をやっております。仕事は五色浜で仕出しをやっております。これから7月8月は五色海浜公園でサマーショップ、9月は五色浜でいもたきを代表でやっております。よろしくお願ひいたします。

【委員】

DCM 株式会社の中村でございます。旧ダイキの頃から地元のホームセンターとして伊予市さんと共同でイベントを開催させていただいております。先ほどありました通り、今年9年目ということで、非常に地元のお客さんから恒例行事として期待されているところが多いかと思ひます。昨年に引き続きまして松山の美沢店、東温市の重信店でのイベントを計画したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【委員】

双海中山商工会の弘田と申します。女性部長をさせていただいております。去年もすごく楽しかったのですが、この伊予市ブランド認定審査会は作り手さんの思いなどが商品に感じられ、すごく楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局(課長)】

ありがとうございました。続きまして、今年度、事務局を担当する職員を紹介致します。

【地域振興部長】

改めまして、企画振興部長の向井功征と申します。ブランド認定品、今年で私は3年目となりますが、ブランド認定品の認知の向上がやはり伊予市にとっても、地域の活性化、経済も含めて地域活性化につながっていくものと大変期待をいたしておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

【地域創生課長】

地域創生課で課長をしております松本です。この地域創生課はできて3年目となりました。このブランド認定業務はじめ様々な事業を推進しておりますが、うちの課の仕事は市民の皆様と一緒にという立ち位置が多いところがございますので、しっかりと伊予市の魅力あるものを広くPRしていきながら、今年の課の目標「ヒト儲け」をしようと課員と一緒に言っております。今日報告するふるさと納税であったり、ブランドのPR、移住定住の推進。人口減少も叫ばれておりますがそういった形で人に来てもらえるような、人儲けもしていきたいと課員ともども1年間かけて様々な事業を展開していきたいと思っておりますので、引き続きご支援、ご協力を頂ければと思ひます。

【地域創生課長補佐】

地域創生課 課長補佐の関木と申します。地域創生課ではふるさと納税、シティプロモーション

ンなどがございます。認定ブランド品に関しても、まだまだ伊予市には隠れた食材とか、日の目を見ていないような商品が多数あると思いますので、その辺を発掘とか見つけ出していきながら、ふるさと納税の返礼品やシティプロモーションを通じてPRができればと思っておりますので、またご協力をお願いいたします。今年1年間よろしくお願い致します。

【地域創生課係長】

今年度よりこのブランド認定の担当となりました地域創生課 宮田と申します。何分初めてですので、いろいろとご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、力をお貸しいただき、伊予市の発展にご協力いただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

【地域創生課主査】

地域創生課の福本と申します。ふるさと納税を主に担当しております。ブランド認定品もこの後説明させていただきますが、数多くふるさと納税にも出ささせていただくことができました。今後も力を入れてPRができればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

【地域創生課主任】

地域創生課 三谷と申します。主に iproject を担当しております。今年からふるさと納税も福本と一緒に担当しています。どうぞよろしくお願い致します。

【事務局(課長)】

それでは、審議に入ります前に、まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。お手元には、「会議資料」「別紙参考資料」「2023年度ブランド認定品パンフレット」「2023年度ブランド認定品チラシ」「ショップカード」「第2回審査会日程調整表」以上がおそろいでしょうか。

では、はじめに、令和4年度の「ますます、いよし。ブランド」認定事業の実績報告をさせていただきます。

それでは、議事に移りたいと思います。

実施要綱に基づき、松本会長に議長として議事進行をお願い致します。

【会長】

それでは、次第に沿って議事を進めて参ります。円滑な進行を心がけて参りたいと思いますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

次第3「令和5年度 事業報告」について、事務局から説明をお願いします。

～前年度事業実績報告～

【事務局】

それでは、令和5年度の事業について、ご報告致します。

資料2ページをご覧ください。まず「令和5年度のブランド認定」につきまして、ヤマキ株式会社の「ヤマキ割烹白だし 500ml」、ウェルピア伊予の「なかやま栗すいーつ」、藤田養蜂場の「びわ蜜」の3品を新規に認定しております。

また、令和2年度に新規ブランド認定及び更新の手続きを致しました、株式会社オカベ「ふんわりチーズの花ふぶきプレーン」、宮野そば製粉製麺所「茶屋そば」など計5品について、認定更新を行っております。

なお、昨年度につきましては、「認定取消」となった品はございませんので、現在のブランド認定品は35品となっております。

次に、「ますます、いよし。ブランド認定品支援事業費補助金」の実績について、ご報告致します。

この補助金は、ブランド認定品の販路拡大や商品包装改良、情報発信など、ブランド品を広く宣伝・販売する取組に対し、市が予算の範囲内で補助するものでございます。

令和5年度は、株式会社オカベ、家具屋アカトシロの販路拡大に要する経費、阿川食品株式会社、株式会社共栄木材の情報発信に要する経費、紺田菓子舗の商品包装改良に要する経費など、5つの事業者に対し、合計50万円を補助致しました。

続きまして、ブランド品のPR活動について、ご報告致します。資料3ページをご覧ください。

昨年度は、R4年度にも実施しました、「ライブコマース」を活用した、オンラインツアーを9月に実施いたしました。ツアー(配信)後は複合的な要因もあるものとは思いますが、ブランド認定品の売り上げ・問合せ増加、ふるさと納税額の増加など、「伊予市ブランド認定品」の認知度向上、販売促進、ふるさと納税に繋がったものと考えております。

また、ブランド認定品パンフレット等を更新し、ふるさと納税返礼品と合わせて、全国にPRすることで新規販路開拓にも繋がりました。

お手元でございます、ショッピングカードは、昨年もご紹介させていただきましたが、物産フェアや商談会、関東市人会等、様々な場面で配布する予定で、QRコードから、それぞれの事業所のサイトへ誘導できるようにしております。ブランド認定事業者へも配布し、活用いただいております。

さらに、令和4年度から「ふるさと納税」の取組みを強化し、本市の魅力ある産品を全国にPRしておりますので、「ブランド認定品」にかかる昨年度実績について、ふるさと納税担当より簡単にご説明いたします。

【ふるさと納税担当】

別紙資料1をご覧ください。伊予市のふるさと納税額実績は平成30年から令和3年まで四千万円程度で推移しておりました。地域創生課でふるさと納税を受け持つようになりましたのが令和4年度からですが、令和4年度が84,551,000円、令和5年度が168,603,000円とこの2年間で4倍となっております。一定の成果を上げたものとは思っておりますが、県内では11番目、まだまだ伸ばす余地はあると考えております。ちなみに一つ上は大洲市となっておりますが、約3億円の寄付額です。まだ金額に差がありますので、これからも頑張ってお参りたいと思います。

次ページはいよしブランド製品のふるさと納税返礼品の採用状況になります。認定品のほとんどの商品を現在ふるさと納税の返礼品として取り扱いしているところです。

次のページからはふるさと納税の中で提供しております、ブランド品の一覧を載せております。昨年度全体1億6千万円の中でブランド認定品が占める金額が10,083,000円となっております。全体の6~7%となっており、まだまだ伸ばせる余地があると思っております。今年度に入ってから一部返礼品の寄付額をブランド認定品を中心に若干下げさせていただいております。その効果もあって注文が増えてきている商品も出てきております。

以上で、ふるさと納税の説明を終わります。

【事務局】

次に、「イベント等への出店」につきましては、例年実施昨年の9月と10月に実施しました、DCM株式会社様との協働事業である「ふるさと特産品フェア」に併せ、ブランド認定証の授与式を実施しました。メディアにも取り上げられたことで、市内外へブランド品のPR、及び購買にも繋がりました。売上も、前年比113.0%(※令和4年度は143.2%)の増となりました。中山

栗を中心に、多数のブランド認定品が完売となりました。

また、8月には東京都の港区との連携事業により「認定品フェア」を実施し、約740人に来場いただき、篠崎ベーカリーの裸麦パンを中心に多数のブランド認定品が完売するなど好評をいただきました。

港区の公式x Twitter等を見て、近隣の愛媛県出身者や「ミカンまる」のファンが来場してくれるなど、「全国連携」の取組みを通して、関係人口、交流人口の創出に繋がったものと思っております。

なお、資料4ページ、5ページには、去年の記録写真等を載せていますので、ご確認いただけたらと思います。

以上で、令和5年度の事業報告を終わります。

【会長】

それでは、令和5年度の事業報告につきまして、ご意見、ご質問等がございましたら、お願いします。

【会長】

ふるさと納税について1点質問をさせていただきます。去年はブランド認定品の割合は1割くらいだった気がするんですが、今回6~7%ということは他に伸びた商品がいくつかあったということでしょうか。よろしければ情報提供していただきたいのですが。

【ふるさと納税担当】

金額面で申し上げますとブランド認定品の取扱が増えたこともあり、上がってはおりますが、全体的な寄付額の引き上げに大きく寄与しているのは紅マドンナです。取扱量が昨年度大幅に増えたことで寄付額はかなり伸びたのが現状です。

【会長】

倍々ということでどんどん増えて4倍になったということで、大変結構なんですけど他方はたぶん同じように伸びているのが事実だと思うので、それ以上に伸びないといけないし、ぜひこのブランド認定の商品も定番のものに負けないくらい増やしていかなければいけないなど、そういう思いですね。

武内委員、いかがでしょうか。

【委員】

特にはございません。

【会長】

友澤委員、いかがでしょうか。

【委員】

特にはございません。

【松本会長】

北岡委員、いかがでしょうか。

【委員】

特にはございません。

【委員】

私の方からは先ほど3ページでご紹介いただきましたDCMフェアについて少しお話させていただきます。振り返りになりますが、昨年、数字的には前年比113%ということでご報告いただきました。振り返れば一昨年はコロナ禍でなかなか試食の実施が出来なかったところがありましたが、昨年は人もついていただいて実施しました。

特産品フェア前のブランド認定会の時に、認定商品の紹介と、松本先生にもご助言をいただき、少しそこでも、試食の実施ができたかなということがございました。

これはですね、ちょっと今年の開催に向けては、引き続き改善していく、工夫していくところがあるのかなと思います。前年、少し試食しにくい商品がありましたので、今年のブランド認定品の内容にもよりますが、そのあたりかと思います。

数字的に、昨年良かったのが中山栗まつりが前週にありまして、そこで栗の販売がされているわけですが、その翌週、美沢で十分な数量をご準備いただけたことが一番数字的には前年の伸びに結びついたのかなというところと、ガンスの実演とか動きがある中で、実際に試食品の販売が多数できたというところがいい材料として昨年伸びたのかなというところで、今年も引き続きそのあたりについてアフターコロナというところはありますが、できるだけお客さんに近づいたイベントで盛り上げていきたいというところがございます。以上です。

【委員】

一点よろしいでしょうか。

【会長】

どうぞ。

【委員】

ふるさと納税に係る資料の実績は昨年の1月から12月ということでよろしいでしょうか。

【ふるさと納税担当】

昨年度の1年間の資料になります。ですので、4月から3月の実績になっております。

【委員】

ではこの一番数量として多いのはヤマキのめんつゆの111個とありますが、認定したのは4月ではないから数字が入っていないということでしょうか。

【ふるさと納税担当】

これについては認定前からの数字を記載しております。

【委員】

一番売れるんですね。

【ふるさと納税担当】

めんつゆと白だしのセットを各種だしております。それ以外にも減塩タイプのものをセットにしたり、12月からは白だし、めんつゆそれぞれ単品で5本入り等も始めました。ブランド力という

のもあるのではないかとこのところ、今ニーズも高まってきており、扱うのが当市のみということもあり増えてきているということです。

【委員】

感想として、伊予市で一番のヤマキという会社の商品が100件以上売れているというのがこの市を象徴していると思うし、ほかの市も含め当然柑橘類が多い。柑橘類も増やさないといけないが、やはりクレームも多い。しかしこのヤマキの工業製品であればそんなにクレームもないから、この数字を見ると何かもっと伸ばせるようなポイントがあるかもしれないと思いました。

【会長】

ありがとうございました。

ちなみに関連してですが、ヤマキさんの商品に関してはやはり関東からの需要、ニーズが多いのでしょうか。

【ふるさと納税担当】

ふるさと納税全体でいえることですが、やはり関東中心になっています。

【委員】

関東の人に聞くとマルトモの名前は知らない人が多いが、ヤマキの名前は関東の人はほとんど知っている。

【事務局(課長)】

委員が言ってくれたように港区の札の辻のオーケースタというところで今回催事をやらせていただきました。その2階がスーパーになっており、そこではヤマキ商品がたくさん並んでいます。それが手に取られているということかと。

我々もそのオーケースタのバイヤーさんと交渉させていただきました。ブランド認定品を紹介して、取扱を依頼したが、竹内委員が言われるように、マルトモの商品は手に取ったことがないと。やはり経節や出汁はヤマキさん。当然置かれているので認知度も高い。キド社長にも聞くと今オーケーさんと一緒にやっているという話もされていた。そういう面でもやはり関東権益はヤマキさんが強いなと認識したところです。

【委員】

白だしなど商品を利用した料理の試食にすれば、こういうお料理もできる、こんな感じで、みたいなイメージしやすく商品を取りやすいと思う。

私たちはイリコなどを使いますが、関東の方はイリコを使わないという話も聞いたことがあるので、関東の方で白だしが出るのもそういう原因があるのかなと感じました。

【会長】

ありがとうございます。

私から、DCMさん、試食会良かったと思いますけど、もう一工夫あれば。パンをスイーツにつけるとか、ハードルは高いかもしれないが、特産品フェアの時にはぜひ。毎回やる必要はないと思いますがそれでどう変わるかというのを1回やられてみてはどうでしょうか。

【委員】

前向きに検討します。

【会長】

その他ありませんか。

※特になし

それでは次に次第4、令和6年度ますます伊予市ブランド認定事業(案)及びその他の事項について、事務局から説明をお願いいたします。

～今年度事業計画(案)～

【事務局】

それでは、令和6年度のブランド認定事業(案)について、ご説明いたします。

資料6ページと別紙資料2、認定申請募集チラシの裏面併せてご覧下さい。

今年度の「募集期間」は、6月3日～7月31日までの約2か月間とし、市ホームページや、公式SNS、広報いよし、募集チラシ等で周知するほか、伊予商工会議所、双海中山商工会を通じて、募集チラシを配布させていただく予定にしております。

また、令和3年度に「認定」及び「更新」をされた事業者は、更新時期となりますので、併せて案内を行います。

続きまして、「ブランド認定事業の拡充・PR活動」について、でございますが、食品だけではなく、工芸品など更なるブランド認定品の増加を目指し、引続き、ふるさと納税の担当者と連携し、積極的な営業活動を行うことで、新たな視点からのブランド品の開拓にも努めたいと考えております。

また、今年度も、愛媛県の観光物産館や、東京都港区の「札ノ辻スクエア」「関東伊予市人会」など、県内外での物産フェア等で、パンフレットやショップカード、ポスター等を活用することで、ブランド品の紹介に加え、ふるさと納税やシティプロモーションにもつなげて参ります。

なお、例年、好評でありますDCM株式会社 様との連携によるブランド認定証交付式や特産品フェアなどの実施は勿論、認定事業者への助成、SNSや昨年立ち上げましたシティプロモーションサイトの活用により、ブランド認定事業者と一体となって、市内外へ認定品のPRを行って参りたいと考えております。

続きまして、資料7ページと別紙資料3を、併せてご覧下さい。

ブランド認定の「審査基準」につきましては、今年度も昨年度と同様の基準で実施したいと考えております。

委員の皆様には、「伊予市ブランド認定制度実施要綱」第4条に定める審査基準に沿い、アからオの各項目について1～5点で採点して頂き、係数を乗じ、100点満点中 全員が70点以上をつけた商品について認定を致します。

なお、1人でも70点未満をつけた商品については、改めて審議を行い、認定の可否を決定致します。

今年度の認定までの「スケジュール」につきましては、7月31日で募集を締め切った後、8月中旬から下旬頃に「第2回ブランド認定審査会」を開催させて頂きたいと考えておりますので、委員の皆様には宜しくお願い致します。

その審議会において、新規・更新の各申請について、申請内容や商品の確認、試食等により認定の可否を決定頂き、認定された商品につきましては、先にご説明致しました、ブランド認定証の授与式を9月下旬頃に実施し、併せてプレス発表を行いたいと考えております。

資料8ページをご覧ください。

その他といたしまして、各種、物産フェアや、産業まつり等、物販を伴うイベント等につきましては、「商工観光課」や、「伊予市観光物産協会(ソレイヨ)」と密に連携し、今後もブランド認定品のPRを行って参りますので、引き続き、ご支援を賜ります様、お願い致します。

なお、今年度のDCMフェアにつきましては、例年どおり伊予市観光物産協会(ソレイヨ)と連携をし、実施する予定としております。

以上で、説明を終わります。

【会長】

ご説明ありがとうございました。それでは、「令和6年度事業計画」(案)及びその他の事項について、ご意見やご質問があればお願い致します。

※特になし

【会長】

ブランド認定事業について、このような計画で進めていくとのことですが、ご要望など無いでしょうか。

※特になし

【会長】

それでは、事務局より、連絡事項等ございましたらお願い致します。

～その他～

【事務局】

先の説明にもございましたが、8月に予定しております「第2回ブランド認定審査会」の日程につきましては、会場の都合などから、お手元にお配りしております「日程調整票」のとおりとなっております。

本日の審査会終了後、分る範囲で結構ですので、お伺いできればと考えております。

なお、不明な場合は、後日FAX又は電話にて、お知らせ頂きます様お願い致します。

以上です。

【会長】

本日の審議は全て終了ということですが、追加などはございませんか？

【事務局】

はい。

【会長】

長時間にわたり適切にご審議を頂き、誠にありがとうございました。委員各位のご協力に感謝を申し上げ、議長の任を解かせて頂きます。

ありがとうございました。

【事務局(課長)】

松本会長、ありがとうございました。以上をもちまして「令和6年度 第1回 伊予市ブランド認定審査会」を閉会させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。